

Title	前期授業概要(配布資料)
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 15 P.3-P.5
Issue Date	2006-03-10
Text Version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/5118">http://hdl.handle.net/11094/5118</a>
DOI	
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 「哲学」

「哲学」という堅苦しい名前がついていますが、この授業の目的は、所謂「哲学者」があれやこれや言っているのをみなさんに伝えて、覚えてもらうということではありません。そうではなく、いわばみなさんと「哲学する」ことを試みたいと思います。

では、どうすれば「哲学する」ことになるのでしょうか。普段、あまり「哲学」という言葉を耳にしたり口にしたりのことはないと思いますが、例えば、「彼の生き方には哲学がある」という表現は、時々耳にすることがあるのではないのでしょうか。それは、一本筋の通った考え方や自分なりの信念をもっていることを指して、「哲学」と呼んでいるように思えます。しかし、「哲学する」とは、実はその場合の「哲学」とは全く正反対の事です。自分の考え方や行動に、知らず知らずの内に前提としてしまっていることがあるのではないかと疑うこと、そして、その前提としていることは何なのかということを探っていくことです。普段は「こうだ」と決め付けて疑わないこと、あるいは、そう決め付けていることすら気づいていないこと、それへの反省の視点をもつことが、ここで言う「哲学する」なのです。

実際に「哲学する」ために、大きく4つのテーマを考えています。「生命」・「環境」・「身体」・「笑い」です。それぞれのテーマに即した問いを立て、それについて、みなさんとの対話を中心に、哲学したいと思います。

<前期>

4月16日：オリエンテーション

4月23日：生命①「人はいつ人になるか？」

講師：西村高宏（神戸学院大学非常勤講師）

出生前診断、着床前診断、胎児の道徳的身分など、生命の誕生をめぐる倫理的問題について考える。

5月7日：生命②「死ぬ権利はあるか？」

講師：寺田俊郎（明治学院大学法学部助教授）

「死ぬ権利はあるか？」耐え難い苦痛に苛まれるときも、これからの人生にまったく希望をもてないときも、人は死んではならないのだろうか。自殺ならば「絶対いけない」という人が多いだろう。それに対して、治る見込みもなくただ苦しみにあえぐ末期がん患者の安楽死ならば、「いいのではないか」という人も少なからずいるだろう。では、両者の違いは何か。

5月14日：環境①「人間と動物の違いはなにか？」

講師：紀平知樹（大阪大学大学院文学研究科講師）

中世の動物裁判と現代の動物裁判の事例を通して、人間と自然物との関わり方や、その変化について考えてみる。

6月11日：環境②「人間にとって文化とはなにか？」

講師：紀平知樹

10分程度のドキュメンタリービデオ（アマゾンの奥地で原始時代の生活を送っている部族に文明が導入されていく様子を追ったビデオ）を観て、人間にとっての文明の意味を考えてみる。

<後期>（予定）

「身体」「老いてできなくなることは不幸なことか？」

「身体はたんなるいれものか？」

「笑い」「何がおもしろさをつくるのか？」

「おもしろさは人に伝えられるのか？」

など

## アンケート

\_\_\_\_年 組\_\_\_\_\_

今年一年間「哲学」の授業をみなさんと作り上げていくにあたって、みなさんがどのようなことに興味があるのかなどを聞かせてもらえたらと思います。書ける範囲で結構ですので、以下の質問にお答えください。

何故、「哲学」を選択しましたか？「哲学」という言葉で何をイメージしましたか？

---

---

---

---

---

---

---

自分の性格、最近興味をもっていることなど、自由に自己紹介をしてください。

---

---

---

---

---

---

---

私たちの研究室で発行しているメチエというニュースレターがあります。そこに今回の授業の感想（どの回の中でも結構です）を書いてみませんか？

書いてみたい / 書く気はない

後期に「笑い」というテーマでの授業を2回予定しています。その授業のための参考にさせてもらいますので、好きなお笑い芸人がいれば、その名前を書いてください。